日本海開口前の日本列島と極東ロシアの中古生代地帯の対比

Correlation of Paleozoic-Mesozoic terranes in Japanese Islands and Far East Russia before the opening of the Sea of Japan

小嶋 智 [1]
Satoru Kojima[1]

[1] 岐大・工・社会基盤
[1] Dept. of Civil Eng., Gifu Univ.

演者は 1980 年代から，中新世の日本海開口前の，日本列島と極東ロシアの中古生代地帯の対比モデルを提案し，改定してきた．本発表ではそれらを総括し最新のモデルを紹介したい．日本とロシアのペルム紀から白亜紀にかけての付加体，オフィオライト，変成岩体，大陸片は，岩相・年代・化石・構造の類似性に基づいて，次のように対比できる．

１）ジュラ紀付加体：美濃－丹波帯（日本）とサマルカーハバロフスク帯（ロシア）．
２）ジュラ紀～前期白亜紀付加体：秩父帯南帯（日）とタウハ帯（ロ）．
３）ペルム紀付加体：超丹波帯（日）とセブチャール層およびウデカ層（ロ）．
４）ペルム紀オフィオライト：夜久野オフィオライト（日）とカリノフカオフィオライト（ロ）．
５）後期白亜紀変成岩帯：領家変成帯（日）とアニュイ変成岩体（ロ）．
６）中古生代大陸片：南部北上帯（日）とセルゲーフカ帯（ロ）．

これらの地帯は，東アジアの大陸縁辺部に発達した沈み込み帯で形成された地帯群である．この沈み込み帯は，中期ペルム紀以前は，中朝地塊とシベリア地塊の間のモンゴル造山帯へと続いていたが，ペルム紀中期に両地塊が衝突した後は，モンゴルから北西太平洋へとシフトしたものと考えられる．